

明日に架ける橋

2026年度 進路だより 第6号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2026年10月14日発行

共通テスト出願が終わりました

2027年度共通テストの出願が終了しました。昨年の共通テストから全受験生がweb出願となりましたが、3年生の志願者は全員、無事に出願を済ませました。今年の3年生は249名が出願し、昨年の207名、一昨年の205名、3年前の160名から大幅増になっています。かねがね共通テストの必要性を伝えてきましたが、よく理解してくれたうえでの多くの出願になったと思います。1・2年次生は進路実現に向けて長期計画を立て、3年次の1月から逆算して、今のうちに基礎学力をしっかりとつけましょう。

推薦入試が始まりました

2学期になり、推薦入試(総合型選抜)を開始する大学・専門学校も出てきました。11月には学校推薦型選抜の公募制入試が本格化します。また9月には2度にわたって、学校推薦型選抜の指定校推薦の校内推薦会議を実施しました。明高生に人気の高い関関同立を中心に高倍率の大学が多く、校長先生はじめ先生方は長い時間をかけて、慎重審議を行いました。明石高校の指定校推薦志望に関しての指導確認事項は以下の通りです。

1. 指定校の出願希望は第1志望大学・学部であることを原則とする
2. 推薦会議においては、学習成績だけでなく、特別活動、取得資格、出欠状況など総合的に判定する

上記原則を踏まえて、出願希望者の審議を慎重に行いました。大学が求める学習成績に達しているか、学習以外の課外活動・特別活動などを頑張ってきたか、出席状況・学習態度・提出物などは良好であるか、当該大学に入学して授業についていけるだけの試験成績を収めているか、など明石高校が責任を持って大学に推薦できる生徒をあらゆる側面から検討しました。

特に近年は、指定校出願に際して英検2級以上などの資格取得を必要条件とする大学が増えています。資格は将来どこかで役に立ちますので、1・2年次生はもちろんですが、3年生も今後もどんどん資格取得に挑戦してください。

指定校推薦会議の結果、大学・専門学校の指定校推薦出願を認められた生徒は現在、出願書類作成、志望理由書などの作成で進路指導部の先生方から指導を受けている最中です。特に志望理由書は膨大な量をしっかりと書く必要がありますので、人によっては何週間もかかって書いている状況です。まもなく面接や口頭試問の指導も始まります。入学試験内容は、大学・学部によって異なりますが、面接・口頭試問・小論文など多岐に渡ります。

多くの大学が、指定校で合格した生徒に、共通テストの受験を義務付けたり、入学前課題を課したりしています。これは、指定校で入学した学生が一般入試で入学した学生に比べて学力が低く、大学の授業についていけない、という問題が起こってきたことに対する措置です。「進路の手引き」にも書いていますが、指定校で大学に入学する生徒は明石高校の後輩に対して非常に重い責任があります。もし、大学で成績不振であったり、授業欠席が多かったり(多くの大学が理由の如何を問わず、半年で5時間欠席すれば単位は認定されません。実習系の授業では、1時間でも欠席すれば単位不認定の大学もあります)、留年したりすれば、その後はその大学から明石高校への指定校推薦がなくなります。そうならないためにも、指定校推薦会議では成績だけでなくあらゆる方面から審議し、明石高校として安心して大学に送ることができる生徒を推薦します。

また同時に国公立大学の学校推薦型選抜出願希望者の校内選考会を行いました。多くの大学が共通テストを課しています。各大学の高い基準での推薦条件をクリアして学校推薦型選抜への出願を認められた生徒は、合格を目指してより一層頑張ってください。

例年のことですが、指定校推薦や国公立大学の校内選考で認められた生徒には共通点が多いことに気付きます。まず、3年間部活動をやり通した生徒が多いことです。やはり部活動を一生懸命に頑張る人は、勉強にも一生懸命取り組むのでしょうね。

また、塾や予備校に行っている人が少ない。これは「進路の手引き」での先輩合格体験記を読んでも、同じことに気付くと思います。推薦入試・一般入試を問わず、国公立・私立大学を問わず、いわゆる難関校に合格した生徒の多くは塾に行かずに頑張りました。決

して塾・予備校を否定するわけではありません。学校の予習、復習、宿題をしっかりとやってそのうえ塾・予備校に行けば、学力はすぐつきます。しかし現実の時間的にこれができるか？ 学校の勉強を疎かにして塾に行くという本末転倒になっている人はいませんか？ 授業・定期考査を完璧に理解すれば、どの大学でも合格ラインに達します。今年も指定校や国公立大学で推薦出願を認められた人は、学校の授業と補習に全力投球して高い学習成績を収めました。模擬試験の成績から見ても、指定校で進学しなくても一般入試で合格できる学力を有している人が、指定校推薦をもらっています。

1・2年生の人は、今一度、先輩の合格体験記を読んで、自分の勉強への取り組み方が間違っていないか、甘くないか、自己検証してみてください。

また指定校推薦での出願を行わない多くの人は、今からが勝負です。去年も3月まで諦めずに頑張って、多数の先輩が第1志望校合格を勝ち取りました。この人たちは、最後まで授業、補習、定期考査を大切にして基本に忠実に頑張りました。

今から私立大学の公募制推薦が始まりますが、第1志望でない大学を受けることにはあまりメリットを見出せません。担任の先生、保護者の方としっかり相談して、選択を誤らないようにしてください。進路指導部には、どんどん相談に来てください。朝は7時半ぐらいから、昼休み、放課後、と学年を問わず、生徒の皆さんの来室を待っています！

中間考査に全力投球！

明後日から中間考査が始まります。しっかりと準備できていると思います。当たり前のことですが、授業で習ったことをもとに出題されるわけですから、満点を目指しましょう。

前にもお伝えしたように、就職や推薦入試での進学に必要な調査書は基本的に3年生1学期までで、この学習成績で就職選考や推薦会議を行います。しかし出願が3年生1月以降の大学などの場合は3年2学期までの調査書を使います。推薦で決定した大学や専門学校から2学期末や学年末の調査書の提出が求められる場合があります。特に推薦入試で合格後に特待生などの試験にチャレンジする際には、2学期以降の調査書が必要なこともあります。大学入学後に奨学金を申し込む際には、必ず高校の最終調査書が必要になります。このような理由も念頭において3年生は最後まで手を抜くことなく、全力で勉強しましょう。

1,2年次生はなおさらしっかり勉強して、3年次になって後悔しないように、学力を身に付けましょう。中間考査は返却までに必ずやり直しをして、できなかった箇所をしっかりと修得することが、実力を身に付けることになります。今を大切にコツコツやれば自分の夢が達成できます。頑張りましょう！

閑話 6月の進路だより第3号で、明石高校の創立記念日は5月26日と記しました。1923年(大正12年)のこの日に、明石中学校開校記念式典が挙行されたからです。

実は、明石高校にはこの日とは別に開校記念日があるのをご存じですか。終戦後間もない1948年(昭和23年)に学制改革が行われ、現在の六・三・三・四の新学制がスタートします。旧制明石中学校は、新制兵庫県立明石高等学校に昇格し、2代目校長加藤直三先生のもとこの年の10月15日に創立25周年および明石高校開校記念式典が行われました。この時、同窓会である自彊会から新校歌と新校旗が贈られました。この10月15日が明石高校の開校記念日と定められたのです。明日は、78回目の開校記念日です。(創立記念日と違って、休業日ではありませんが…)

ちなみに自彊会是新校歌制作に際して、神戸出身の詩人竹中郁氏に作詞を、童謡「とんぼのめがね」「スキー」などで著名な平井康三郎氏に作曲を依頼しました。明石中学時代に春夏合わせて9度甲子園に出場した野球部は、2年後の1950年(昭和25年)の夏、新制高校になって初めて甲子園の土を踏みました。1回戦で準優勝した鳴門高校に惜敗しましたが、応援団によって新しい校歌が甲子園に響きました。よければYouTubeで、「明石高校校歌」と検索してみてください。1987年(昭和62年)に、春夏連続で甲子園に流れた際の校歌と観衆の手拍子が聞けます。また甲子園に明石高校の校歌が流れる日をを楽しみにしています。(責o)

